

第33回委員会会議結果概要(案)

開催概要	
日時	平成22年11月8日(火) 17時30分～20時15分
場所	船橋商工会議所
参加者数	47名
出席委員	17名 (◎遠藤茂勝、工藤盛徳、倉阪秀史、宮脇勝、榊山勉、及川七之助、澤田洋一、上野菊良、竹川未喜男、三橋福雄、歌代素克、後藤隆、佐々木洋晃、松崎利光、田草川信慈、赤塚稔、大野二三男) ◎：委員長
結果要旨	
◇ 報告事項	
○ 第32回委員会の開催結果概要	
事務局から資料1により説明後、質疑応答	
[主な意見及び対応]	
<ul style="list-style-type: none"> ・海岸保全区域について、県から見直す意向が無いと示されているが、その後事務局で考えを整理すると記憶がある。一度整理して欲しい。 →護岸検討委員会では、現在の海岸保全区域内について議論する場であると理解している。なお、自然再生の場については、再生実現化検討委員会で議論する内容であり、その結果によって海岸保全区域の見直しが必要であれば、見直しを検討することになると考えている。(事務局) 	
○ 2丁目2期地区前面護岸バリエーションの階段ブロックについて	
事務局から資料2により説明後、質疑応答	
[主な意見及び対応]	
<ul style="list-style-type: none"> ・景観に配慮するためには、コンクリートの露出を無くす必要がある。 ・被覆する種類は1種類にすべきである。 ・メンテナンスに費用がかかるので、コンクリートのままで良いと思う。 ・自然石張りや洗い出しは雨の日に滑りやすいので、安全面も考慮すべき。 	
(まとめ)	
<u>以下に配慮して、事務局で最終的な配置を決定する。</u>	
<ul style="list-style-type: none"> ・<u>コンクリートが目立たないようにする。</u> ・<u>滑らないように安全に配慮する。</u> ・<u>メンテナンス費用がかからないようにする。</u> 	

◇ 議題

○ 1丁目環境調査結果及び影響評価について（中間報告）

事務局から資料3による説明後、質疑応答。

[主な意見及び対応]

- ・「重要種」という欄の「アカニシ」や「オオノガイ」について、「危険」と記述されているが、三番瀬には沢山生息している。
→これは、WWFのJapan Science Reportを基に記述したものである。このレポートを使うことは、2丁目の調査時に清野委員からアドバイスをいただいたものである。（事務局）
- ・資料の中で、平面図と横断図の不整合や貝の名称に誤りがある。
→確認して修正する（事務局）

○ 2丁目工事着手から4年後の検証評価について

事務局から資料4による説明後、質疑応答。

バリエーション区間の植生基盤について、これまでの緑化試験結果に基づき、購入砂で石の間詰めタイプで実施したい提案をした。

[主な意見及び対応]

- ・植生の基盤は、購入砂で石の間詰めタイプで良いと思うが、吸出し防止シートの端部処理を検討すべき。
- ・砂付け試験で良い結果が出ている。覆砂の参考にして欲しい。

(まとめ)

緑化の基盤は、購入砂を石に間詰めする方法で実施することとする。

本議題は、11月18日に開催される三番瀬評価委員会に諮ることとする。

○ 1丁目護岸被覆ブロックについて

事務局から資料5による説明後、質疑応答。

[主な意見及び対応]

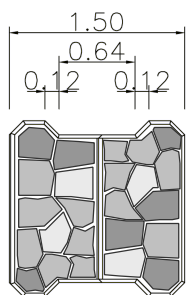
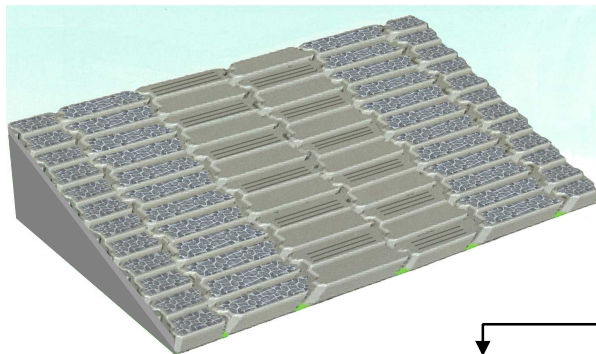
- ・1丁目前面の滞は、船の航行に使っている。このことから、護岸の返し波を抑える構造にして欲しい。また、釣り人の糸が船のプロペラに絡まるトラブルも発生している。このトラブルが発生しないような構造にしてもらいたい。
- ・委員会では、千鳥配列＋突起ということを了承し、後は専門家に任せることでよい。
- ・比較の一覧表には、「D1, 2, 3」のケースで記載されており、以前のページにある「D5」のケースの場合はどうなるかを知りたい。
- ・護岸の端部処理はどうなるのか。ここに人が集まるような目玉となるような物が作れると良いと思う。
→展望的な施設は、市川市行徳漁業協同組合が使用している区域から外れた場所で検討したい。（事務局）

(まとめ)

一覧表のケース2「D2」を基本として、D5のブロックを使用した場合の検討も進めることとする。

第2期まちづくり地区前面 50mバリエーション区間で使用する階段ブロック製作立会い

階段ブロックデザイン



日時:平成23年6月15日(水)

場所:共和コンクリート(株)木更津工場

- ・ 遠藤委員長による第1回目の階段ブロック製作段階で立会いを実施。
- ・ 石の目地の通りや深さなどを指示した。

